

第4回通常総会資料

開催日時 平成29年 6月10日(土) 13:30~

開催場所 厚生連高岡病院地域医療研修センター(Ⅰ)

富山県農村医学研究会

第4回通常総会次第

日時 平成29年 6月10日(土)

13:30~16:00

場所 富山県厚生連高岡病院
地域医療研修センター(Ⅰ)

1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 議長選任
4. 議事録署名人選出(2名)及び書記指名(2名)
5. 議 事
 - 第1号議案 平成28年度事業報告書、財産目録、収支決算書報告承認について
 - 第2号議案 平成29年度事業計画案及び収支予算書案承認について
 - 第3号議案 役員の改選について

特別講演 JA長野厚生連 佐久総合病院名誉院長
夏川周介氏

「地域包括ケアの実践 - 佐久病院の軌跡 - 」

平成28年度事業報告

I. 事業の概要

平成28年度の事業終了に当たり、事業の概況について報告致します。

本会では豊かな農業・農村を維持する農業者の健康づくりについて様々な調査研究を行ってまいりました。

特に、本会設立以来、全国に先駆けて農作業事故の実態調査を続け、農水省が実施する「農作業事故の対面調査」を主導的に推進してまいりました。また、高齢者が農作業に携わる事による健康保持増進効果に関する調査も引き続き実施してまいりました。

これらの研究成果は、平成28年10月に三重県志摩市で開催された第65回日本農村医学会、並びに平成29年3月開催の第34回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会など、各種学会で発表してきました。

以上、本会の活動は医療関係者はもとより行政、農協および農村の保健と医療に関心のあるあらゆる方々の協力により実施されてきました。次年度も引き続き事業計画に基づき、さらに研究調査に鋭意取り組んでいきたいと思っておりますので、会員各位の絶大なるご協力をお願いいたします。

II. 主な事業項目の概要

1. 研究調査活動

(1) 農業災害事故調査

農作業事故の臨床例調査を県内のすべての外科、整形外科、皮膚科、眼科、脳神経外科、ICU、接骨院を対象に約830カ所に往復はがきで、農作業事故の臨床例の有無を問い、「有り」と回答の有った医療機関に詳細調査表を送付し、農作業事故臨床例の収集に努めた。

なお、全共連の機構改革により昭和45年以来続けていました全共連県本部の生命共済、傷害共済より検索する農作業事故調査は昨年と同様調査出来ませんでした。その結果、臨床例は48件であり、農機事故は、トラクター4例、コンバイン4例、耕耘機3例、草刈機3例、トレーラー2例、乾燥機1例、その他1例の順で、農機外では30例でした。死亡事故は、農機が2例、農機外が2例でした。

(2) 農作業事故のケーススタディ

農村における農作業事故のケーススタディについて全国における調査、富山県における調査

(3) 高齢者の骨密度と生活習慣の関連について

継続して高齢者の骨密度測定を実施した。今後、高齢者の骨粗鬆症予防の指針を示す必要がある。

J Aいなば等 25箇所

2. 各種研究会参加

(1) 第65回日本農村医学会

・開催日 平成28年10月27日(木)～28日(金)

・開催場所 志摩市阿児アリーナ、志摩観光ホテル、伊勢志摩ロイヤルホテル、ザ クラシック

・会員発表 4題

- ① 便潜血陽性者に対する精密検査受診勧奨についての検討
厚生連高岡健康管理センター 坪野 由美他
- ② 防音防具の評価
富山県農村医学研究会 吉田 稔他
- ③ 富山県における空中スギ花粉数年次推移と花粉症患者動態について
富山県農村医学研究所 寺西 秀豊
- ④ 主要農業機械の事故様態と重症度の関係
—農作業事故の対面調査から—
富山県農村医学研究所 大浦 栄次他

(2) 第34回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会

・開催日 平成29年3月4日(土)

・開催場所 厚生連高岡病院地域医療研修センター(1)

・会員発表 6題

- ① 高校生の生活習慣と骨密度の関係
厚生連高岡健康管理センター 荒田 美土里他
- ② 生活習慣の変容とインスリン抵抗性の関連
富山県衛生研究所 中崎 美峰子他
- ③ 国立科学博物館の企画展「花粉と花粉症の科学」にみる花粉対策
富山県農村医学研究所・富山協立病院 寺西 秀豊
- ④ 神岡鉱山の排煙対策40年余
—被害住民、弁護士と協力科学者による立ち入り調査の経過と到達点—
元富山県立大学短期大学部 林 節男
- ⑤ 各種農業機械の騒音の周波数分析の結果について
富山県農村医学研究会 吉田 稔他
- ⑥ 農作業におけるリスクアセスメントの手順
富山県農村医学研究所 大浦 栄次他

Ⅲ. 主な行事（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

年.月.日	主 な 行 事	
	事 項	場 所
28.4.28	役員会	厚生連本所応接室
28.6.4	第3回総会	厚生連高岡病院地域医療研修センター1
28.7.4 28.7.19	第34巻会誌発刊 役員会	厚生連本所応接室
28.10.4	富山県農業災害事故実態調査（前期）	県内医療機関
28.10.27 ～28	第65回日本農村医学会総会	三重県伊勢市（会員発表4題）
28.12.21	役員会	厚生連本所応接室
29.2.7 29.3.4	富山県農業災害事故実態調査（後期） 第34回富山県農村医学研究及び健康管理活動発表集会	県内医療機関 厚生連高岡病院地域医療研修センター1 （会員発表6題）

Ⅳ. 総会

第3回総会

総 会 日 現 在 会 員 数		308名
出席会員数	実際に出席した会員数	35名
	委任状数	198名
	計	233名
重要なる議事及び議決事項 第1号議案 平成27年度事業報告・収支決算書承認について 原案承認 第2号議案 平成28年度事業計画案・収支予算書案承認について 原案承認 ※議事終了後、講演会を開催 特別講演 講師 富山県厚生連高岡健康管理センター所長 亀谷 富夫 氏 「変化する糖尿病食事療法の常識」		

財 産 目 録
(平成29年3月31日現在)

(単位：円)

内 訳	金 額	備 考
預 金	1, 169, 995円	
計	1, 169, 995円	


監 事 の 意 見 書

平成29年5月 16日に会長理事から提出された第1年度の事業報告書、財産目録、収支決算書の各事項について監査致しました。その結果、以上の内容は適正なものと認めます。

平成29年 5月16日

富 山 県 農 村 医 学 研 究 会

監事 西川 藤 樹 

監事 田 中 茂 弘 

平成 28 年度 収支決算書

(自平成 28 年 0 4 月 1 日～平成 29 年 0 3 月 3 1 日)

収入の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 引 額	備 考
会 費 収 入	306,000	315,000	9,000	
会 費	306,000	315,000	9,000	315 人×1,000 円
特別負担金	1,470,000	1,470,000	0	
特 別 負 担 金	870,000	870,000	0	870,000 円 (厚生連)
調査研究協力費	600,000	600,000	0	厚生連より繰入
雑 収 入	100	5,052	4,952	
雑 収 入	100	5,052	4,952	利息など
前期繰越金	1,358,460	1,358,460	0	
収 入 計	3,134,560	3,148,512	13,952	

支出の部

(単位：円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 引 額	備 考
会 議 費	250,000	158,272	-91,728	
総 会 費	150,000	120,640	-29,360	資料、会場費、講師料他
役 員 会 費	100,000	37,632	-62,368	役員会 3 回
事 業 費	2,505,000	1,696,478	-808,522	
研究調査費	1,000,000	902,449	-97,551	各種調査研究
専 門 委 員 会 費	25,000	0	-25,000	〃 打合せなど
研究集会費	100,000	108,550	8,550	発表集会抄録、会場費ほか
会 誌 発 行 費	1,000,000	378,000	-622,000	
編 集 委 員 会 費	20,000	0	-20,000	
通 信 費	180,000	187,479	7,479	電話代他
消 耗 品 費	130,000	120,000	-10,000	コピー代他
備 品 ・ 什 器	50,000	0	-50,000	
旅費交通費	220,000	117,620	-102,380	
旅 費 交 通 費	220,000	117,620	-102,380	日本農村医学会・参加費など
雑 費	140,000	6,147	-133,853	
雑 費	140,000	6,147	-133,853	
予 備 費	19,560	0	-19,560	
予 備 費	19,560	0	-19,560	
支 出 計	3,134,560	1,978,517	-1,156,043	
次期繰越金	0	1,169,995	1,169,995	

平成29年度事業計画（案）

I. 事業方針

富山県内の農山漁村におけるすべての健康問題を調査研究し、明るく健康な村づくりに寄与する。

特に、農薬中毒や農業災害、職業性疾患等農業医学的分野及び、農村環境や農村生活に起因する農村医学的分野について調査研究を行う。さらに、命を育む農業を営む事の精神的、社会的、文化的意義を明らかにし、心豊かな農村づくりに寄与する。

II. 事業計画概要

1. 農村の職業性疾患の調査研究

- ・農村の地域環境並びに農作業の特殊性に起因する健康障害の調査研究

2. 農業災害の調査研究

- ・農業機械の健康に及ぼす影響についての調査研究、特に騒音及び振動の影響に関する 調査研究
- ・農業機械及び農業機械以外による農業災害事故調査研究

3. 農薬の生体に及ぼす影響に関する調査研究

- ・農薬中毒の実態調査
- ・農薬の生体に対する急性及び慢性的影響に関する調査研究
- ・農薬の生体残留に関する調査研究

4. 健康管理に関する調査研究

- ・農業従事者の健康状態の把握と保健指導
- ・農業従事者の健康管理に関する調査研究
- ・農業従事者の生活習慣病の実態調査とその対策に関する調査研究

5. 農村における社会医学的研究

- ・農村における高齢者に関する調査研究
- ・社会変動による農業従事者の生活・健康に及ぼす影響についての調査研究
- ・都市近郊農村における社会医学的研究
- ・農村における食生活の変化と健康影響に関する調査研究

6. 農村における特殊疾患の調査研究

- ・伝染病、風土病等の地域多発疾患の疫学的調査研究

7. 農村における環境汚染およびその変化と健康影響に関する調査研究

8. 乳幼児並びに学童の健康調査研究

9. 農村の健康会議、健康教室等の実施

10. 研究会誌並びに必要な印刷物の発行

11. 研究集会の参加及び開催

12. その他目的達成に必要な事項

III. 主な事業計画

1. 主な調査研究

(1) 農業災害に関する調査研究

- ①富山県における農業災害事故調査
- ②農業災害事故のケーススタディ
- ③高齢者の農作業安全に関わる調査研究

- (2) 農薬中毒に関する調査研究
 - ①農薬散布者の健康調査
 - ②有機リン剤の体内残留に関する調査研究
- (3) 農村におけるアレルギー疾患に関する調査研究
 - ①農村地区における花粉症に関する調査研究
 - ②農村住民のアレルギー疾患に関する調査研究
- (4) 農作業及び農作業環境と健康障害に関する調査研究
 - ①各種農作業における作業環境及び労働負荷に関する調査研究
- (5) 農山村における騒音と聴力障害などに関する調査研究
 - ①農業機械の騒音分析及び作業中騒音暴露量の測定
- (6) 農村環境の変化と健康影響に関する調査研究
 - ①農村における熱中症など温暖化影響に関する調査研究
 - ②農村における自然エネルギーの実態と利用の将来的可能性に関する調査
- (7) 農村における生活習慣と健康に関する調査研究
 - ①食生活と健康に関する調査研究
 - ②農村生活の変化と健康障害に関する調査研究
 - ③農村におけるメタボリックシンドロームの実態とその対策
- (8) 農村におけるプライマリーヘルスケアに関する調査研究
 - ①農村における健康管理運動に関する調査研究
 - ②農村検診における各種疾患の要因分析に関する調査研究
- (9) 農村における高齢者問題に関する調査研究
 - ①農村高齢者の生きがい因子の解析に関する調査研究
 - ②農村高齢者の農作業と骨密度の関連に関する調査研究
 - ③農村における介護および認知症等に関する調査研究
- (10) その他、農山漁村における各種健康・保健調査の実施

2. 各種研究集会参加・交流並びに開催

- (1) 第35回富山県農村医学研究及び健康管理福祉活動発表集会の開催
平成30年3月3日（土）、厚生連高岡病院地域研修センター I
- (2) 第66回日本農村医学会お
開催日時：平成29年10月5日、6日
開催場所：沖縄県宜野湾市

3. 会誌等の印刷物の発刊

- ①会誌の発刊
- ②農村医学に関する啓蒙資料の作成
- ③その他

4. その他目的達成に必要な事業

平成 29 年 度 収 支 予 算 書

(自平成 29 年 0 4 月 1 日～平成 30 年 0 3 月 3 1 日)

収入の部

(単位：円)

項 目	前年度	予算額	備 考
会 費 収 入	306,000	306,000	
会 費	306,000	306,000	306 人×1,000 円
特別負担金	1,470,000	1,470,000	
特 別 負 担 金	870,000	870,000	870,000 円 (厚生連)
調査研究協力費	600,000	600,000	厚生連より繰入
雑 収 入	100	100	
雑 収 入	100	100	利息など
前期繰越金	1,358,460	1,169,995	
収 入 計	3,134,560	2,946,095	

支出の部

(単位：円)

項 目	前年度	予算額	備 考
会 議 費	250,000	250,000	
総 会 費	150,000	150,000	資料、会場費、講師料他
役 員 会 費	100,000	100,000	役員会 3 回
事 業 費	2,505,000	2,205,000	
研 究 調 査 費	1,000,000	1,000,000	各種調査研究
専 門 委 員 会 費	25,000	25,000	〃 打合せなど
研 究 集 会 費	100,000	100,000	発表集会抄録、会場費ほか
会 誌 発 行 費	1,000,000	700,000	
編 集 委 員 会 費	20,000	20,000	
通 信 費	180,000	180,000	電話代他
消 耗 品 費	130,000	130,000	コピー代他
備 品 ・ 什 器	50,000	50,000	
旅費交通費	220,000	300,000	
旅 費 交 通 費	220,000	300,000	日本農村医学会・参加費
雑 費	140,000	140,000	
雑 費	140,000	140,000	
予 備 費	19,560	51,095	
予 備 費	19,560	51,095	
支 出 計	3,134,560	2,946,095	
次期繰越金	0	0	

第3号議案 役員・顧問の改選について

H29.6.10

理 事	役	職
鏡 森 定 信	富山産業保健総合支援センター	所長
川 口 祐 男	県農業技術課	課長
安 藤 満	元富山国際大学	教授
寺 西 秀 豊	元富山大学医学部公衆衛生学教室	准教授
草 野 亮	北陸メンタルヘルス研究所	代表取締役
酒 井 富 夫	富山大学研究推進機構極東地域研究センター	教授
中 崎 美 峰 子	富山県衛生研究所	
亀 谷 富 夫	厚生連高岡健康管理センター	所長
北 川 清 秀	厚生連高岡病院	院長
南 里 泰 弘	厚生連滑川病院	院長
山 本 康 雄	富山県農協中央会農業対策部	部長
金 杉 康 博	全農富山県本部生活燃料部	部長
荻 野 孝 次	富山県厚生連	代表理事 理事長
大 浦 栄 次	富山県厚生連	健康福祉アドバイザー
谷 井 悦 子	富山県農協女性組織協議会	会長
大 久 保 光 太	富山県農協青年組織協議会	会長
中 尾 英 里 子	富山県高岡地区生活指導員協議会	会長
監 事	役	職
小 栗 光	厚生連滑川病院	副院長
西 川 藤 樹	富山県厚生連	常務理事

事務局長

吉 田 稔 富山県厚生連健康福祉課審査役

顧 問	役	職
石 田 礼 二	富山市民病院	名誉院長
加 須 屋 実	富山大学	名誉教授
寺 中 正 昭	寺中クリニック	院長
菊 池 誠	金沢西病院	理事長
熊 谷 武 夫	元高岡市保健センター	所長
小 川 忠 邦	元老健施設みしま野苑一穂	施設長

理事

就任 富山県農林水産部農業技術課 課長 川口 祐男
 富山県農協青年組織協議会 会長 大久保 光太
 富山県高岡地区生活指導員協議会 会長 中尾 英里子
 退任 老健施設みしま野苑一穂 施設長 小川 忠邦
 富山県農林水産部農業技術課 課長 飯田 恒
 富山県農協青年組織協議会 会長 大平 真也
 富山県高岡地区生活指導員協議会 会長 水野 小夜子

顧問

就任 元老健施設みしま野苑一穂 施設長 小川 忠邦

富山県農村医学研究会 会則

富山県農村医学研究会

富山県農村医学研究会 会則

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会は富山県農村医学研究会という。

(事 務 局)

第2条 本会は事務所を高岡市永楽町5番10号におく。

(目 的)

第3条 本会は農山村の実態に立脚して、医療と保健に関するすべての問題を調査研究し、健康な農山村生活を築くために寄与することを目的とする。

(事 業)

第4条

- (1) 農山村に関する医学的調査、研究ならびに保健福祉活動
- (2) 保健福祉に関する啓蒙ならびに会報その他必要な印刷物の発行
- (3) 研究発表会ならびに講演、講習会の開催
- (4) 日本農村医学会ならびに関係研究会との連絡および協力
- (5) その他目的を達するための必要な事業

第2章 会 員

(会 員)

第5条 本会の会員は、本会の目的に賛同して入会した者とする。

(会 費)

第6条 本会の会員は、総会において別に定める会費を納入しなければならない。

第3章 役員および顧問等

(役 員)

第7条 本会に、理事若干名、監事2名の役員をおく。役員は総会において選任する。理事は互選により会長1人を定めるものとし、また必要に応じて 副会長2人を定めることができる。なお、理事および監事は相互に兼ねることができない。

2 役員の任期途中交代については、前任の残任期間をもって役員を選任することができる。

(職 務)

第8条 会長は本会を代表し、会務を統括する。

- 2 理事はあらかじめ会長に事故があるとき、または会長が欠けたとき、その職務を代行するものを定めておくものとする。

- 3 理事は、理事会を構成し会務の執行を決定する。
- 4 監事は、会務の執行状況および財産の監査を行う。

(顧問)

- 第9条 本会に顧問をおくことができる。
- 2 顧問は理事会において推薦し、総会の承認をうるものとする。
 - 3 顧問は理事会に出席し、意見をのべることができる。

(任期)

- 第11条 役員、顧問の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

(運営委員)

- 第10条 本会の運営を円滑にするため必要に応じて運営委員会を置くことができる。運営委員会は、会務全体の執行について意見を言うことができる。運営委員は会長が委嘱する。任期は2年とする。

(事務局)

- 第12条 本会に事務局をおき、事務局に事務局長および事務局員若干名をおく。
- 2 事務局長および事務局員は、会長が委嘱する。

第4章 会 議

(種別)

- 第13条 本会の会議は、総会および理事会、総会は通常総会および臨時総会とする。

(構成)

- 第14条 総会は会員をもって構成し、理事会は理事をもって構成する。

(職能)

- 第15条 総会は、次の各号に掲げる事項を議決する。
- (1) 事業計画および収支予算の決定
 - (2) 事業報告および収支決算の承認
 - (3) その他本会の運営に関する重要な事項
- 2 理事会は、次の各号に掲げる事項を議決する。
- (1) 総会の議決した事項の執行に関する事項
 - (2) 総会に付議すべき事項
 - (3) その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項

(開催)

- 第16条 通常総会は毎年1回5月または6月に開催する。
臨時総会は、理事会が必要と認めたとき、または会員の5分の1以上から会議

の目的たる事項を示して請求があったときに開催する。

- 2 理事会は会長が必要と認めるとき、または理事の4分の1以上から会議の目的たる事項を示し請求があった時に開催する。

(招 集)

第17条 会議は会長が招集する。

- 2 総会を招集するには、会員に対し会議の目的たる事項および場所を示して開会の10日前までに通知しなければならない。

((議 長)

第18条 総会の議長はその総会において、出席会員のうちから選任する。

- 2 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

(定 足 数)

第19条 会議は総会においては会員、理事会においては理事の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(議 決)

第20条 総会の議事は、出席会員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。この場合において議長は、会員として議決に加わる権利を有しない。

- 2 理事会の議事は、出席理事の同意をもって決する。

(書面議決等)

第21条 やむを得ない理由のため会議に出席できない会員、または理事は あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、または他の構成員を代理人として表決を委任することができる。この場合において前2条の規定の適用については、出席したものとみなす。

(議 事 録)

第22条 会議の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 会議の日時および場所
- (2) 会員または理事の現在数
- (3) 会議に出席した会員の数または理事の氏名
(書面表決者および表決委任者を含む。)

- (4) 議決事項
- (5) 議事の経過

- (6) 議事録署名人の選任に関する事項

- 2 議事録には、議長および出席した会員または理事のなかから、その会議において選出された議事録署名人2人以上が署名しなければならない。

第5章 会計

(会計)

第23条 本会の会計は、次に掲げるものをもって構成する。

- (1) 会費
- (2) 寄付金品
- (3) 事業に伴う収入
- (4) その他収入

(事業年度)

第24条 本会の事業年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

附則

本会則は、平成25年12月1日より施行する。

一部改訂 平成27年7月4日

投 稿 規 定

募 集 原 稿 農村医学の分野における独創的な研究および会員のたよりとします。

投 稿 の 資 格 投稿者は原則として富山県農村医学研究会会員とします。

原 稿 の 送 り 先 富山県農村医学研究会事務局宛（富山県高岡市永楽町5番10号）

投稿原稿の掲載選択順位は編集委員にご一任下さい。

論文の原稿の形式

1. 本文は本会規定の原稿用紙に、口語体、平かな、新かなづかいで、できるだけ簡潔に横書して下さい。
2. 外人名、地名、その他の固有名詞、特別な化合物名などは、できるだけ原綴のまま（Pasteur, Prostigmin 等）とし、動植物名は日本名の次に学名（ローマ字 Moccus rlesus, 山椒藻 Salvinabatah 等）を記入する。計量にかんするものはメートル法に準拠し、次のような略号を用いる。メートル m, センチメートル cm, グラム g, キログラム kg 等。
3. コンマ（,）ピリオド（.）コロン（:）ゴシックの使用等に気をつけて下さい。
4. 図表は、そのまま製版できるように上質ケント紙または方眼紙に墨で、ていねいに書いて下さい。
（図表は、特殊なものを除いては、出来上がり左右6.5cmに製版しますから、その2倍か3倍に書いて下さい。）
図表の文字は、こちらで記入しますから、鉛筆で書いて下さい。
5. 写真は出来るだけ鮮明なものをお送り下さい。
6. 本文に挿入する図表、写真については、挿入場所を原稿の欄外に明記（末記）して下さい。

無 料 掲 載 原稿用紙20枚（刷り上がり5頁）までとします。ただし挿入附図、附表を含みます。

有 料 掲 載 超過頁の印刷代、附図、附表の製版代の実費は投稿者の負担とします。ただし刷り上がり15頁を限度とし長篇の論文を5頁ずつ分割掲載することは認められません。

文 献

1. 雑誌の場合 著者名、標題名（雑誌指定の略号）、巻数（号数）、頁一頁、発行年月（昭和52. 5のごとく）。
2. 単行本の場合 著者名：標題名、発行所、発行地、発行年月（必要ならば引用の箇所を最後に）

印 刷 印刷の部数や体裁などについてはある程度まで、実費をもってご希望に応じてます。ただし別刷30部までは無料で投稿者に進呈、30部以上は実費をご負担願います。

編 集 後 記

富山県はこの冬豪雪にみまわれ、'56 豪雪に劣らず物的にも人的にも莫大な災害をもたらしたものと思われます。'56 豪雪による人的災害につきましては、当時、富山県農村医学研究会会長の豊田文一が県医師会の援助による「'56 豪雪による人的災害に関する調査」の結果を富山県医師報に報告し、富山県農村医学研究会会誌 12 巻に掲載し、雪害対策、ことに人的災害について示唆を与えたものと思います。この度、「平成 30 年豪雪による人的災害に関する調査」を企画し、多くの医療機関などから情報をお寄せいただきお礼申し上げます。調査結果は、会誌、学会等で報告させていただきます。

本会の活動は、医療関係者はもとより行政、農協および農村の保健と医療に関心のあるあらゆる方々の協力によって実施されてきました。

今後とも、多くの方々の投稿を期待します。

(M. Y)